

令和4年度 福井県立大野高等学校全日制 学校評価書

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
<p>1 教育課程 学習支援</p>	<p>a 家庭学習の現状をより正確に把握し、課題への取り組みや主体的な学習を促していく。</p> <p>目標：生徒の家庭学習充実度の目標指数 肯定的評価60%以上</p> <p>b 公開授業や研修会等の授業研究体制を通して、指導方法を研究し実践する中で授業改善に取り組む。</p> <p>目標：教員の授業力改善および生徒の授業満足度の目標指数 肯定的評価80%以上</p>	<p>a 生徒の学習時間に関しては、質問2の回答A、Bが42%と目標数値からかなり差があり、また前年度と比較しても減少している。一方、保護者からは質問1のA、Bが91%、質問2が74%であることから一定の評価を得ているのではないかと考える。生徒の学家庭学習定着の取り組み（特に1、2年生）については、さらに指導が必要である。</p> <p>b 3年間続いている県の指導力向上推進事業やICT機器の導入により、教員の授業スキルが徐々に向上している。このことが、生徒の授業満足度で高い肯定的評価を得ているものと思われる。また、今年度は教員アンケートの質問1の表現を変えている。結果としては、各教員が授業改善に努めていることが推察できる。</p>	<p>a 学習課題の質の向上、課題点検の工夫、授業での学習内容の扱い方など、各教科の特性を踏まえながら、量・質ともに適切な学習課題と学習させる方法を探る。また、家庭との情報交換に努め、学校と家庭がより連携して生徒の学力向上を目指す。</p> <p>b 引き続き校内での公開授業や研究協議会を定期的に実施し、生徒の主体的で深い学びを実現する授業研究を行う。また、校外からの評価を得るために、次年度も保護者に授業を公開する日を見つける。</p>
<p>2 生徒支援</p>	<p>a 毎朝の登校指導や毎月の容儀指導、交通安全指導の徹底により、生徒の規範意識の向上に努める。</p> <p>目標：生徒の規範意識達成の目標指数 肯定的評価95%以上</p> <p>b 学校祭・委員会活動・部活動を充実させ、生徒の主体的活動を推進する。</p> <p>目標：生徒の生徒会行事や部・サークル活動の目標指数 肯定的評価90%以上</p>	<p>a 正しい身なりで学校生活を送るよう努めた回答した生徒・保護者は、98%以上あり、高い意識が見られた。教職員の容儀指導については、積極的に取り組んだ教職員は、86%で前年より2%減少した。しかし、容儀指導については、2年前より7%上昇しており、教職員の高い意識があると思われる。</p> <p>b 本年度から新しく項目に加えた生徒会行事・委員会活動の取り組みについては、満足していると回答した生徒は96%、保護者は98%であった。充実した部活動ができた回答した生徒は、8年連続で93%以上あり、本校の部活動に満足していると回答した保護者も6年連続で89%以上となった。部活動指導を行ったと回答した教職員は75%であり、3年連続で75%以上の高い水準を維持している。</p>	<p>a 継続して実施している登下校の交通指導や挨拶指導を効果的かつ充実した活動にする。また、正しい身なりについて全教職員との共通理解を図るため、校内メールや集会などの機会にわかりやすく丁寧に説明をする。また、生徒会や風紀委員会を中心にさらなる校則の検討に取り組む。</p> <p>b 生徒会や委員会活動については、他学年と協力しながら効率的かつ見通しを持って取り組むことができるように支援する。</p> <p>さらに、生徒が充実した学校生活を送ることができるように、学校行事の適正化・効率化に努める。学校行事や部活動などに主体的に取り組むことができる生徒の育成に努め、リーダーの育成を図る。生徒が充実した活動ができるように、環境を整えて支援する。</p>
<p>3 進路支援</p>	<p>a 進路に係わる全体指導および個人指導の検証と実践を通して、進路目標の早期設定と具体化に努める。</p> <p>目標：進路意識高揚（生徒）の目標指数 肯定的評価90%以上</p> <p>b 各種研修会・ガイダンス等への参加を促し、進路意識の高揚と指導力の向上に努める。</p> <p>目標：進路意識高揚（教員）の目標指数 肯定的評価90%以上</p>	<p>a 進路目標の早期設定と具体化に関し、「進路意識が向上した」と回答した生徒が89%（昨年比-1%）と前年度とほぼ同じであった。また本校の進路指導に関する保護者の満足度も91%（昨年比+3%）とほぼ同じであった。ほぼ目標指数90%を達成しており、例年同様の満足度を得られている。次年度も高い満足度を得られるように内容の検討を行っていきたい。</p> <p>b 「生徒の進路意識が向上した」と回答した教員が100%で前年度と同じであった。また、教員の研修会等への参加率は83%（昨年比+5%）で、目標指数には届かなかったが、前年度より増加した。コロナ禍により、生徒の大学訪問が中止になったことや、教員の研修会が開催されなかったことがあったが、オンラインの活用により増加したと考えられる。次年度もオンラインの活用を含め、指導力の向上に努めたい。</p>	<p>a 生徒の進路目標の早期設定と具体化を行うために、低学年での大学訪問や進路講演会、ガイダンス、保護者対象の進路研修会等、適切な進路情報の提供を行いたい。特に見学や体験が進路意識向上に深く関係しているため、オンラインの活用を含めて内容および方法の検討を行い、充実を図る。</p> <p>b 今年度実施された大学入学共通テストの全国平均点は大幅に上昇した。次年度に向けて、問題の分析や情報収集、今後の対応策や指導方法の再検討を行い、生徒の進路実現を図る。</p>

<p>4 保健管理</p>	<p>a 各種講演会や保健だよりの発行、校内掲示板や大高メールの活用などで啓発活動を充実し、家庭とも連携して生徒の健康・安全に対する意識を向上させる</p> <p>目標：生徒の健康管理意識の目標指数 肯定的評価90%以上</p> <p>b 面談やいじめのアンケートなどを実施し、学年会や関係部署と密に連携した教育相談活動を行い、生徒の抱える問題の早期発見・早期解決を図りながら適切に対応する。</p> <p>目標：生徒の教育相談活動の目標指数 肯定的評価90%以上</p>	<p>a 自分の健康に心がけている生徒は全体の93%で前年度と同様の高い数値である。学年別では、2,3年生は学年が上がるに従ってその数値が上がり、健康に対する意識が年々向上していることがわかるが、1年生で心がけているという生徒が71%と少なくなっている。ただし、2,3年生に比べて、欠席者や感染者が著しく多いといった傾向があるわけではない。</p> <p>b 相談したいことがあったら、誰かに悩みを相談できそうだと答えた生徒は92%で、前年度とほぼ同様の値である。その中でも十分にできそうである生徒の割合は学年が上がるに従って上昇する傾向があるが、1年生は57%と例年の30%台後半に比べて非常に高くなっている。また教職員の教育相談に対する意識も95%と高い水準であり、全教職員で生徒の教育相談活動に取り組んでいる姿勢が現れている。</p>	<p>a 生徒・保護者対象の保健だより・各種講演会の内容の充実、保健・環境整備委員会活動の活発化を図り、生徒の健康管理・安全に対する意識の向上を図る。また、大高メールを活用して保護者への注意喚起に努める。以上の事柄を継続して取り組みながら、現1年生の今後の推移や実態を見守っていく。</p> <p>b 生徒が、気軽に教育相談が出来る環境を整備するとともに、初期指導を含め、学校全体での適切な対応を心がける。また、校内相談がなかなか出来ない生徒に対しては、個々の事例を鑑みながら適切な外部相談機関を紹介していく。以上の事柄を今後も継続して取り組む。</p>
<p>5 図書支援 保護者との連携</p>	<p>a 朝読書や古本市、図書館だより、図書掲示板などを活用し、読書習慣を定着させる。</p> <p>目標：年間2冊以上の読書をした生徒 70%以上</p> <p>b 学校の情報発信を積極的に行う。</p> <p>目標：大高メールの積極的活用とホームページの週1回以上の更新を目指す。</p>	<p>a 年間2冊以上読書した生徒は62%で昨年度と同じであるが、3冊以上読んだ生徒の割合が増加している。朝読書が読書習慣のきっかけになったという生徒は3%減少しているが、図書館だよりの配布や図書掲示板の活用および古本市等の図書館イベントにより、読書の冊数は維持できている。目標70%を超えるためには全く読んでいない生徒に読書のきっかけを与える必要がある。</p> <p>b PTA活動の内容およびその情報提供について保護者の評価は97%で、昨年度より2%増加している。大高メールやSNSの積極的配信とホームページの週1回以上の更新の成果といえる。</p>	<p>a 今年度は古本市を実施し、参加した生徒には好評であった。しかし、参加生徒は読書習慣が身につけている生徒であり、読書習慣のない生徒が図書館に足を運ぶ機会を増やすための図書館イベントの実施を今後も検討していく。</p> <p>また、朝読書週間の目的を明確に示し、少しずつでも読書習慣のない生徒に読書のきっかけを与えたい。</p> <p>b 情報発信を積極的に行っていくが、大高メールやSNS (Facebook、Instagram) については発信方法や内容を検討していく。</p>